

<経験ストーリー文章>

にし阿波～剣山・吉野川観光圏

千年のかくれんぼ～分け入るほどに時はさかのぼり～
クリエイティブクラスの欧米人カップルが旅するにし阿波

ゆったりと流れる大河が、
その先にある隠れ里へと続く、旅のはじまりを予感させる。

まず最初に訪れたのは、川に沿って連なるうだつの町並み。
伝統的な「うだつの町並み」の景観を眺めながら、商店に入ったり、行き交う
人と挨拶を交わしたり、異国情緒と日本の歴史に触れて楽しむ。

次に立ち寄るのは、樹齢 1000 年の大クスの樹。風で揺れる葉音や、鳥の声に耳
を傾ける。
樹に寄り添うように建つ小さな祠に、長年育まれた自然を尊ぶ日本らしさを感じ
る。

そして、2人は歴史を遡るように祖谷へと向かう。

狭い川幅と荒々しい岩肌が生む独特の景観が、
奥へ奥へと分け入って進んできたことを旅人に知らせる。
2人は、大歩危の溪谷を行き交う遊覧船を楽しみ、
ケーブルカーで崖を降りたところに佇む秘境の湯に浸かる。

祖谷の人気スポットかずら橋では、
足元から川を覗き見る吊り橋を、はじめ少し怖気づきながら、慎重に歩く。
橋の途中でふと周囲の自然の豊かさに気づき心癒される2人。

この橋の先に、まだ見ぬ隠れ里がある。

Going deep into the valley. Going back in time.

分け入るほどに時は遡り…

ここからさらに奥へと分け入る2人は、
そこで高地傾斜地集落の暮らしや人に出会うことになる。

まず立ち寄るのは、崖のような急斜面にある猿飼集落。
経験したことのない急峻な斜面を歩いて降りると、
そば畑が階段のように折り重なった、見たことのない景観が広がっている。

次に訪れるのは、武家屋敷喜多家。
立派な囲炉裏を囲んで、地元のお母さん方が作った田舎料理をいただく。
古くから伝わる祖谷の民謡が、言葉も人種も違う異邦人を優しく包みこむ。
たとえ言葉は解らなくても、積み重なった時間の深みを感じる。

最後に訪れるのは、祖谷の高地傾斜地集落の象徴ともいえる落合集落。
集落ガイドの農家のお父さんが案内する畑には、
コエグロと呼ばれる円錐形をしたススキの茅の固まりが至る所に点在している。
こうして茅を天日で干して肥料にしている。
高地傾斜地には、古来から受け継がれる循環型農法がいまも息づいている。
自然と寄り添い共生する暮らし・・・朴とつだが豊かなライフスタイル。

宿泊先は、美しく快適にリノベーションされた古民家。そこで2人は旅を語り合う。
やはり印象に残るのは、人々との交流。
そこで出会った笑顔や優しさ、そして山の暮らしの知恵。
高地傾斜地集落の暮らしこそが、ここにしかない本物の価値だと思う。

翌早朝。
この辺りは雲海が出ると聞いたので、
まだ暗いうちに起き、地元ガイドの案内で傾斜地を車で上る。
うっすらと夜が明けはじめた頃に辿り着いた場所で、
雲海が深い谷を埋めつくし、千年のかくれんぼ・・・
2人はしばし言葉を失い、新しい朝の息吹を山里で感じる。

A thousand years, a hidden hamlet.